

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和8年3月11日

コミュニティ名 肢体不自由教育実践向上コミュニティ
代表者所属名 京 都 府 立 向 日 が 丘 支 援 学 校
代表者職・氏名 教 諭 津 田 亜 希

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

肢体不自由教育実践向上コミュニティ

2 研究テーマ

肢体不自由のある児童生徒の生きる力を育むための授業づくり

3 研究の目的

肢体不自由のある児童生徒が主体的に社会と関わる「生きる力」を育むための授業づくりについて研究を深めたい。昨年度までの研究成果を踏まえ、肢体不自由のある児童生徒の授業づくりにおいて、各教科等の目標・内容をおさえながら授業づくりに取り組む。また、コミュニティ参加者一人一人の専門性を高めるとともに、5年目の研究活動であることから、これまでの研究成果を発信できるように肢体不自由のある児童生徒への授業づくりで大切にしたいポイント等をまとめ、府内での授業力向上へ貢献したい。

4 研究の成果と課題

肢体不自由のある児童生徒への授業づくりについて、各校の実践報告、研究協議を軸に研究を進めることができた。前年度までの研究を踏まえ「各教科等を合わせた指導」の単元づくりについて、主となる教科を明確にすること等、単元を構成する上でのポイントを再度確認した。その上で、評価について「評価をシンプルにすること」「育ちが見て取れるような評価の基準・方法が大切

である」等、大切にしたいことについて整理をすることができた。

総合的な学習の時間や道徳科については、性教育について具体的な実践例を踏まえながら、障害の重い子ども達にどのような授業が行われているのか情報共有した。児童生徒の実態を踏まえ、生活年齢に考慮することや、性教育であれば同性の指導者から指導を行う等、障害種別や程度に関わらず、すべての児童生徒に共有する授業づくりの大筋は変わらないことを確認することができたが、ポイントの整理までは至らなかった。

5 研究成果の波及方法

- ・メンバーの勤務校内でコミュニティ資料を随時閲覧できるようにし、情報発信を行うと同時に、勤務校での授業づくりの悩みをコミュニティ活動内で報告し、それらに対するアイデア、情報提供等をフィードバックする。
- ・京都府教育委員会が企画する当該事業の報告会における発表をとおして、府内全域へ波及させる。
- ・日本特殊教育学会にてポスター発表を行い、研究成果を報告することができた。

6 研究（活動）実績*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
R7.7.4	顔合わせ、研究計画について	オンライン
R7.7.30	研究協議①	城陽支援学校
R7.9.13	日本特殊教育学会 ポスター発表	水戸市民会館
R7.12.26	研究協議②	向日が丘支援学校
R8.1.28	研究協議③、まとめ	オンライン
R8.1.30	成果報告会	総合教育センター

7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	障害の重い児童生徒への各教科等合わせた指導について
育てたい資質能力	<p>○各教科等の見方・考え方を働かせた授業で育む障害の重い児童生徒の生きる力</p> <p>○地域社会で自分らしく生きる力（自分の思いを伝える力・身近な環境を様々な感覚を活用して捉え、自ら関わろうとする力等）</p>

<p>実践又は研究の 具体的内容</p>	<p>研究の具体的内容</p> <p>【各教科等を合わせた指導における単元構成の考え方】 各教科等を合わせた指導では、合わせている各教科等の中で軸になる教科があり、加えて様々な教科を組み合わせている。軸になる教科、その教科で学ぶ内容を明確にすることで目標や評価がシンプルになり、活動ありきの単元ではなく、生活に生きる深い学びを実現した立体的な単元になる。</p> <p>【各教科等の見方・考え方について】 学習指導要領で述べられている地域社会で生きる子ども達の姿を想像し、どんな力をつけてほしいか、児童生徒の実態に落とし込んで具体化することで、手立てや指導者の言葉掛けが変容し、各教科を合わせた指導を行う中でより各教科等の見方・考え方を働かせた広がりのある単元や系統性のある学びを実現することができる。</p> <p>【評価について】 障害の重い子ども達の授業での評価を行う上で、変化が微妙であり、どのように評価をしたら良いのか、また単元間での評価が似通ってしまいがちという悩みがよく挙げられていた。研究を通して評価について以下の3点が大切であるとまとめることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンプルな目標を立てること。 ・育ちが見て取れるような評価の基準や方法にすること。 (例：評価場面と基準を明確にし、記号で評価を残していく。△できそう⇒○できる時もある⇒◎確実にできる) ・「できない」「できた」だけでなく、「違う場所でできるようになった」「様々な人とできるようになった」等、どのようにできるようになったのかが分かるような評価をすること。また指導者自身が上記のような「育ちを太らせていく」視点をもつこと。
--------------------------	---